

日本は大阪人かそうでない人か……で、できている。
世界標準な大阪人の魅力を最大限に活かして、
大阪をアジアへのゲートウェイに！



（株）盛之助代表取締役社長
日経BP未来研究所チーフ
川口盛之助氏

morinoske.com

相次ぐ大規模災害、富の不均衡と格差、

人種・民族問題と政治的分断など、混迷の深まる今日の世界。一方、国内では人口、経済を始めあらゆる面で東京一極集中、という事実在日本各地からの不満が囁かれて久しい。こうした状況の中、大阪はどんな力を発揮できるのか、著書に未来予測分析「メガトレンド2016・2025」、日本の国力に着目した「オタクで女の子な国のモノづくり」を持ち、アジア各国の政府機関からの招聘を受け、ブランドینگなどの支援を行う川口盛之助氏に聞いた。

大阪の感覚は「世界各国のセンスに近い」。

神

戸出身で18歳から東京に拠点を移した川口氏の目から見ると、東京は首都であり、もちろん日本の中心でありながら、文字通り「東の中心地」であるのに対し、大阪が関西の中心なのかというと少し違うという。「大阪は……雰囲気としてはアジアだよな。いいとか、悪いとかではなく、

大阪人が「まず疑ってかかる」のは、
個が確立しているからこそ。

また、大阪人の距離感も大きな武器だと、自らの過去の体験を語ってくれた。同じ会社の人と打合せの日時を決めるシーンで、川口氏が「いや、水曜日はちやうど……」と言うと、相手の方が手帳を覗き込んで「あ、こ、木曜あいますやん」と当然のように言ったことにシラクを受けた。「ええ、人の手帳、見るなや」と思いつつも、これがなんとなく許されてしまうのは「大阪弁」のなせる技だと感じたと話す。自然体で流されずに自分の意見を言える。こは、大きな切り札である。

大阪人は、ややもすると、エグい、空気を読まない、と思われる面が多々ある。事はど左様に、日本で美德と言われるものは、たいがい、「大版的」ではないものだったりする。この「大阪人は違っているよね」という事実を良いことと捉えるのか、悪いことと捉えるのか、という場面においては、もしマイナスに捉えたら、ただ「イタイ」だけ。今あるリソースの価値を最大化するのが大人の役目なので、当然良いことと捉えるべき、という川口氏。

多い日本において、大阪人のまず疑ってかかる、そう簡単にはお金払わないというあり方が、「狭い」のではなく、確立している個々の価値判断や基準の上に立っているのであれば、とても希望が持てるという力説する。

大阪が目指すべき未来は、
アジアと世界に開けた都市。

東京は都市の規模的に極めて珍しい「スラムがほほえない都市」であるが、大阪は世界の各都市と同じく、日本の中では少なからず移民や貧困の問題も抱えている都市である。つまり、大阪は世界の都市と同じ悩みを持っている。そのような負の面も含め、グローバルな都市であると言える、川口氏は捉えている。

「東京みたいなものを目指すのは、やっぱりナンセンス」と言い切る川口氏。同じ、沈みゆく船に乗っている東京に対抗しても始まらない。今、圧倒的に伸びているのは「アジア」なので、大阪は東京に対抗するのではなく、アジアに対してだけゲートウェイイになれるのか、にかかっているという。

冷静に見ると大阪の価値を外の人々が知っているのか、という点に着目しなくてはならない。たとえば、PPAP（1）が今、世界で受けている。年配の人をはじめこれが日本なんだと思われたい」と感じている人は少なからずいるだろう。しかし、古い世

レアであることはひとつの価値だと思う。そして、大阪は日本の他のどの都市とも違うんだよね」。東京をはじめとして、世界的にイメージされる「日本らしさ」は、「目立たないような、愚直に仕事します」というような、マジメ攻めだろう。大阪には「笑かしてナンボ」という文化があり、それは、世界各国のセンスに近いと感じていると川口氏は言う。

例として、川口氏は以前にたまたま観たテレビ番組の内容を挙げた。日本から、いかついおっさんや、ガンゲロギャルなど、「見強そう」な人々を海外に連れていく。そして、それぞれレストランで注文をするのだが、そこで注文とは違う商品が次々出てくるといって仕掛けた。見た目に強そうでもほとんどの日本人が「こでクレームしたらまた時間もかかって一緒にいる人に迷惑がかかるだろう」と配慮して、空気を読んで「まあいいか……」という対応になってしまっ中、唯グローバルスタンダードな振る舞いができた。つまり「これ、ちやうやん！これ頼んだやつより高いやん！」と言えたのが、大阪のおばちゃんだったという。この「負けな感覚」は大阪ならではのパワーであると。

代も含め誰もがなんとなくいいと感じているものが受けるようでは、何も変わっていないこと。それでは終わっている。成熟した社会になってきてやると生まれ出た「花」は咲かせなくてはならない。サブカルチャーというのは、そういうものだと思える。

大阪がいかにプレッシャーなのか、そしてそれを天然記念物にしてしまわないためには、その価値を最大化しなくてはならない。そのロジックを理解しないと未来は見えない。パブルが弾けた後に生まれ、将来への希望があまり持てない若い世代には厳しいところもあるかもしれないが、まだ栄えていた時代を知っている40代くらいには、わかると思うので、ぜひ若者も巻き込んで世界開かれた都市、大阪として踏ん張ってほしい。川口氏の大阪人へのエールには熱い説得力がこもっている。



※(1)「PPAP」Youtubeの動画再生で驚異的なヒットを記録し、「Billboard Hot 100」にランクインした最も短い曲としてギネス世界新記録を達成した、お笑い芸人ヒコ太郎の音楽動画。